別表４

剣　道　一　級　審　査　実　施　要　領

公益財団法人　兵庫県剣道連盟
（令和８年４月１日改正実施）

順序	科　目	実　施　要　領	留　意　事　項	
			掛り手	元立ち
1	**切り返し** （２回繰返）	元立ちと気をあわせながら、一足一刀の間から呼吸をはかり、大きく踏み込んで元立ちの正面を打つ。続いて前進しながら左右面を４回、後退しながら５回打ち、体勢を整え、大きく踏み込んで正面を打つ。再度これを繰り返し最後の正面を打った後、そのまま送り足で数歩前進し、**右足を軸にして**素早く左まわりに体をさばき中段に構え、元立ちに正対する。	(1)「ヤー」の掛け声は、最初のみ掛ける。 (2) 竹刀の打突部（物打）で元立ちの正面及び左右面を、**発声を伴って**大きく振りかぶり打突する。 (3)遠間から**一足一刀の間合いに入って**、気・剣・体を一致させて打つこと。 (4) 充実した気勢でなければならない。 (5) 体当たりはしない。	(1) 正面打ちの受け方は打突二、三歩(小さく)引く。 (2) 連続左右面の受け方は、竹刀を垂直に立てて、**掛り手**の左右面打ちを引き込むようにして受ける。
2	**小手から面** （１回）	機を見て踏み込んで元立の右小手を打ち、元立ちが引いて**剣先を横に開いて防ごうとするところをすかさず正面を打ち、そのまま送り足で数歩前進し、すばやく右足を軸にして左まわりに体をさばき中段に構えて、元立ちに正対する。**	(1) 振りかぶった両腕の間から、小手打ちの場合は相手の小手が、面打ちの場合は正面が見えるところまで振りかぶり、**発声を伴って**正確に打つこと。 **(2) 体勢が崩れないように、小手を打ち込んだ勢いを利用して速やかに正面を打つ。（元立ちの左を抜ける）** **(3) 足の運び（送り足）は迅速にすること。**	(1) 剣先（けんせん）をやや上げて、相手を引き寄せるようにして小手を打たせる。 **(2) 引きながら竹刀をやや右斜めに開き、正面を打たせる。**
3	**小手から右胴** （１回）	機を見て踏み込んで元立の右小手を打ち、元立ちが間合いをとり**次の技を防ごうとして**手元が上がったところをすかさず踏み込んで右胴を打ち、体を右前方にさばきながら送り足で数歩前進し、すばやく**右足を軸にして**左まわりに体をさばいて中段に構え、元立ちに正対する。	(1) 胴打ちの場合は、相手の胴が見えるところまで振りかぶり手の内を返し、**発声を伴って**左斜めに打つ。 (2) 胴打ちの場合、充分な間合で打つ。（近間にならないこと。） (3) 胴打ちは、両手で打った後、右斜めに前進する時、左こぶしを送ってもよい。	(1) ２の(1)に同じ。 (2) 竹刀を上段に振りかぶり、胴を打たせる。
4	**面体当たり 引き面** （１回）	機を見て元立ちの正面を打ち、打った後すかさず体当りを行い、元立ちが**しっかり受け止めて**応ずるところを、**元立ちの力を利用して**左足から体をさばいて後方に引きながら元立ちの正面を打つ。 **その後中段の構えに戻りながら一足一刀の間合いをとる。**	(1) 充分に正面を打った後、腕を曲げ（柔らかく）両脇を締め、下腹部に気力を込めて当たり腕で押さない。 (2) 打突部(物打)で打ち、気・剣・体の一致に注意する。 (3) 足さばきを正しく迅速にすること。 (4) 体勢が崩れないこと。 **(5) 体当たり後、相手の力を利用して左足から引きながら竹刀を振り上げ、発声を伴って正確に正面を打つ。**	(1) 体当たりを受ける際は、下腹部に力を入れて手元を下げる。また左足かかとを上げた状態で、**やや前に出てしっかり受け止める。** **(2) 体当たり後、竹刀をやや右斜め上方に開き、踏ん張るようにして正面を打たせる。**
5	**面体当たり 引き胴** （１回）	機を見て元立ちの正面を打ち、打った後すかさず体当たりを行い、元立ちが**押し返し**手元が上がるところを左足から体をさばいて後方に引きながら、元立ちの右胴を打つ。 **その後中段の構えに戻りながら間合いをとる。**	**(1) ４の(1)から(4)に同じ。** (2) 体当たりは互格の力で、双方の手元が上がるところを体をさばいて**発声を伴って**引き胴を打つ。	(1) ４の(1)に同じ。 (2) 面→体当たり後、直ちに手元を上げ、**右胴を打たせる。**
6	**切り返し** （１回）	切り返しを１回行って終わる。 要領は１に同じ。	(1) １の(1)から(5)に同じ。 (2) １から６までの実施にあたっては「縁（えん）」がきれない（残心）ようにすることが大切である。	(1) １の(1)、(2)に同じ。